

トーマスは怒ってしまう、というやり取りがあったとその本には書いてあります。

で、そのことをこのプロジェクトで感じまして、兎に角一年位でスペックを作りなさい、と、ヨーロッパの検定機関に持ち込んで、パスしなければならない。そのためにスペックを少しでもゆるくしようとすると“ No ! ” とくる。洋の東西の違いかも知れませんが、スペックの違い、ものの考え方の違いをこの時に感じました。

何よりも、工程計画は作ったらその通りやる、そのことには驚きましたね。レーダの試験をするのですが、米軍のミル規格ですが、その実証と計算との両方パスしなければならない。また温度、湿度などのウエイトを変えての耐久試験にもパスしなければならない、というのは我々としては新しいわけでした。

また、後発のハンディをカバーするために、この製品には各種の新技术が盛り込まれたが、意図した性能が出ず、夜を徹しての苦闘が始まった。プロジェクトチームの必死の努力と情熱で丸 1 年後にプロトタイプを完成、RCC 検定に無事一回で合格することができた。第一ロットの製品が 3 ヶ月後に出荷された。販売に先駆けて行った欧州各地のディーラによるデモンストレーションが功を奏し、売上は順調に推移した。欧州の厳しいユーザに受け入れられた事が殊のほか嬉しく、プロジェクト全員で成功の美酒に酔いしれた。(会報第 4 号及び 6 号より一部転載あり)



Mr. Trim から贈られた銀製の灰皿

新しいレーダを完成し納品したときに貰ったのがこの記念の灰皿です。

近況ですが、昨年と今年に相次いで両親を亡くし、今年はその新盆です。長崎出身なので、兄弟で相談し鐘楼舟を出すことにしました。8月15日に出帆です。以上です。

(今井先生：昨年新妻君の一周忌を偲ぶ個展がありましたが、帯谷さんと安原さんには特集号で追悼文をお願いし、そこに寄せられた文章を読んでいると、胸が熱くなるような思いで、新妻君もこれだろうかばれるなど感じました。本当に名文を書いていただいて、僕自身が何もしてあげられなかった代わりに帯谷さんと安原さんが名文で偲んでくれたことを嬉しく思います。本当にありがとうございました。)

9) 坪井 孝光

私はパソコンで会報をやる以外はゴルフをやっています、今年は徹底的に基礎から研究し直そうということで、昨年新たに出版された『モダン・ゴルフ』：塩谷紘訳、をしらみつぶしに最初のページから精読しています。そして一字一句トレースして見ました。その結果、これはどう考えても誤訳ではないか、と思われるところが出てきました。アメリカ出張時に手に入れた英文の原本が手許にあったので付き合わせて見ました。詳細に調べた結果、なんと 15 箇所も誤訳臭い所が見つかりました。

この怪しい 15 箇所に対して、坪井試案の翻訳も添えて、坪井試案 誤訳一覧表、として出版社「ベースボールマガジン社」出版部に封書で送り付けておきました。

この 4 月から本気でベン・ホーガンに取り組み始めました。この著者によると、6 ヶ月で 70 台は決して夢ではない、と書いてありますので、この 10 月からは見違える自分を発見できるものと日夜努力中です。因みに、この本は 50 年前に発行されており、アメリカを始め多くのプロを教えるインストラクターも挙って手本にしています。また、この本はアメリカでも依然として人気があり、週に千部、年間 5 万部が売れているベストセラー商品だと記されています。

10) その他

今井先生：この会を続ける価値があるかどうか、問題がいろいろあるのですが、こうゆうものはどう重点を置いてやったらいいのか。試行錯誤で、迷い迷いながら本当はやっているのです。今回初めてご参加下さった平賀さんと岡本さんにお聞きして見たい気がしていますが。

平賀様：非常にまじめな会合ですね。(一同爆笑) 実は年に一回、今でもやっている私達の会合は飲

んで騒ぐのですが、これで結構楽しいですね。「今度は何時やるのですか」と会員のほうから聞いてくるような具合です。キーマンがいて、皆の人氣があって、人を集めてくるんですね。これが非常に大事なことなんです。私の方といえば騒ぐほうで、私の孫みたいな人が「何とかちゃん」とか言ってね。

それぞれいいんじゃないでしょうか。立派ですよ。この会は何よりの財産だね。

今井先生：ある意味ではあまり真面目過ぎると長続きしないということですか？（一同爆笑）

岡本様：大学の先生が教え子の結婚式に呼ばれる機会が少なくなっているという統計があるそうです。仲人を減らすとかの簡素化もあるのでしょうか。それも一因とは思いますが、知的な薫陶を受けたという関係は何時までも大事にしたいと思いますね。それが無いと人間関係の基本が崩れてしまいますね。それが消えつつあるので、この会には今回初めて出させていただきましたが、それがありますね。

今井先生：何も教えることがないんですが。

岡本様：でもあるんですよ。教師の背中を見て育つという。（一同納得）

司会：大変良いお話を伺うことができ、本当にありがとうございました。



左：倉本様、その右 今井先生

11) 手締め・鈴木 威一 様

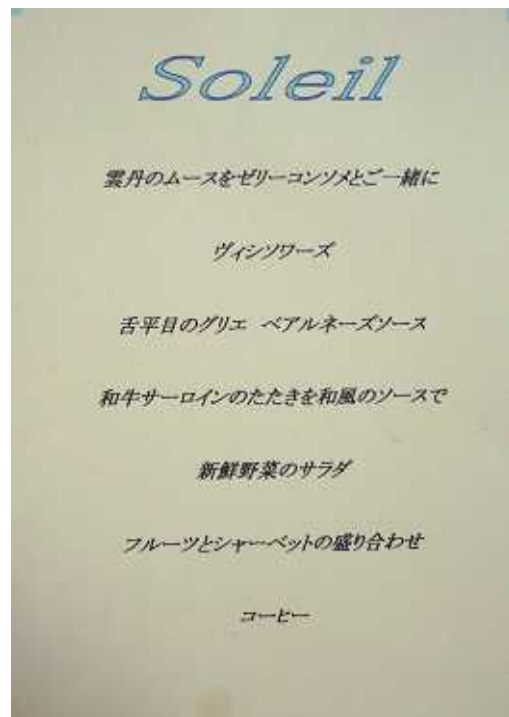
今井卒研究生の会が今日の懇親会の結果、今後も継続、ということが確定いたしました。それは皆様にとって本当に嬉しいことだと思います。

皆様のご健勝と、今井卒研究生の会がますます今後も隆盛でありますよう祈りまして、一本締めをお願いいたします。ではご唱和をお願いいたします。「よ～お、パチン」

ありがとうございました。



司会進行：坪井孝光



懇親会昼食のお品書き

7. 編集後記

編集後記

今井先生の巻頭文は、この氾濫した情報化の時代においても、価値のあるものを印刷物として後世に残していくことの意義を示されております。また今井研の卒研究生でいまだ現役の会員塚本一義さんの成書出版も今井先生によって今回の会報に紹介されております。この会報も第 1 号から 10 号までを一区切りとした「合本」で、国会図書館へ寄贈するなどとして残していく作業を現在進めているところです。

昨年亡くなられた佐藤秀吉様へは、お寄せいただいた追悼文などを掲載いたしました。佐藤さんは 2002 年 7 月の第一回懇親会に会場までお越しいただき、門下生を囲んでの集合写真に納まっております。ご冥福をお祈りいたします。

会報第 11 号に対する感想文を 2 名の方からいただいておりますが、今後さらに皆様からの積極的な投稿を期待しております。

今井研卒研究生の一人、小野澤賢三さんからは「電算写植システムの開発(その1)」の寄稿をいただきました。新聞社の印刷スピード改革などに多大な貢献をされております。その仕組みを、会員に分かりやすく解説してくれております。

東京銀座交詢社で昨年開催された第六回懇親会スピーチの後半部分を掲載いたしました。出席者の皆様から貴重なご意見をお聞きすることができました。

これまで会報のコピー用紙としては、HP Q 1931 A の紙質が気に入り使用してきましたが、今年になって製造が中止となったことに気がつきました。代替品として、少し薄手ではあるものの今までのものとほぼ同質の HP プロフェッショナル q 6593 a という製品があることが分かり、これまでの紙が無くなり次第、この紙の使用を始めることにいたしました。

昨年パソコンを vista に変更しました。しかし使用しているプリンター HP Photosmart 2610 all-in-one が vista に対応していなかったため、両面印刷ができないことが分かったのです。カスタマー・ケア・センターに電話し、他機種のソフトをインストールすることでなんとか会報第 11 号の発行ができました。しかし今回の 12 号を発行しようと両面印刷を試みたところ、両面印刷のソフトが消失していることがわかったのです。再度電話で他機種のソフトをインストールして両面印刷ができるようになったものの、その後の自動で送られてくる「2610」用の更新ソフトをインストールしたところ、両面印刷ができなくなってしまったのです。

毎回カスタマー・ケア・センターに電話はしたくないので、いままでのプリンターを諦め、vista 対応のプリンターを入手することにし、HP Photosmart C 6280 All-in-One を導入いたしました。これでやっと両面印刷の心配が解消したことになります。このプリンターで今後の会報および「合本」を印刷して発行することにいたします。なお、このプリンターは売出し中の新製品ではあるものの、2万円弱と、パソコンに比べると安価なものです。

会報編集担当： 坪井 孝光

Windows X P に満足し切っていた小生に反し、坪井さんはいち早く vista に更新された。32 ビット PC の持つ多くのメリットを先取りされていたのには感服するばかりである。さすがに本会報の「編集担当」である。

短い期間の間に、vista 対応の両面印刷プリンター及びこれにマッチする用紙をも使いこなされたご苦労は、小生にとっては驚きであると共に大きな感謝でもある（今井 哲二）。

連絡先

今井研卒研究生・有志の会

TEL : 042-461-6796

E-mail : i-tetsuji@jcom.home.ne.jp

会報第 12 号 : 2008.9.30 発行